

## 職員による自己評価

**A ; 環境面**

利用定員に対しての活動スペースは個別の活動スペースはパーティション等でアイデアを盛り込んで、確立したスペースが提供できていると思うが、お世辞にも広いスペースではなく、微妙。現状では身体障害をお持ちの利用児がいない為、あまり不便を感じないが、バリアフリー化はなされていない。

**B ; 児童への支援内容**

手順を踏んで計画は立てられていると思うが、実際の支援に活かし切れていない。活動プログラムはその都度子どもたちの状況に応じて考えている。送迎時間の関係で、一日の終了時に振り返りが出来ていないのが現状。日誌については、概ねしっかりと書かれていると思う。計画の見直しは良いタイミングでなされていない。

**C ; 関係機関との連携**

医療機関、事業所利用前の関係機関や卒業後の関係機関との連携は取れていない。利用中の子どもや保護者の情報共有は概ねなされている。

**D ; 保護者への説明責任・信頼関係**

保護者への報告や相談は短い時間ながらも出来ている。会報やお知らせ等でも連絡・報告等は出来ている。保護者会や父母の会は無い。

**E ; 非常対応**

非常対応は今まで実践したことがなく実際に出来るか疑問。

## 保護者による評価

**A ; 環境面**

活動スペースは不十分である。また、職員の数は問題ないと思われる（でないとう営業できないから）が、専門性が適切であるかどうかは疑問。既存のマンションの一室の為、設備は不十分である。

**B ; 児童への支援内容**

子どもと保護者のニーズや課題は計画に、何となくは反映されていると思われるが、日々の活動プログラムが工夫されているかどうかは疑問。子どもは日々成長している為、もっと頻繁に活動の見直しをすべきではないか。他機関の子どもや障害の無い子どもと接する機会は無くてよい。午前日課や長期休暇の利用時間を、弁当持参で午前中から夕方までといったように長くしてほしい。

**C ; 事業所からの情報発信**

支援の内容や、事務的な内容は契約時や面談時に丁寧な説明があったが、日頃の子どもの活動の様子や、子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達は、送迎時の口頭での引継ぎや電話でのやり取りだけで、お世辞にも出来ているとは言えない。せめて連絡帳等で活動内容や日々の子どもの過ごしについてしっかりとした報告が欲しい。

**D ; 非常対応**

緊急時対応マニュアルやその他のマニュアルはあると言う話は聞いているが、実際に見たことはなく、有事の際に本当にそれらが機能するのかが不安。

## 事業所内での分析

**【共通点】**

活動スペースの広さについては、不十分である。保護者や子どものニーズは個別支援計画等に書面上は反映されていると思うが、実際に日々の事業所内での過ごしや支援に活かされているかについては疑問。また、非常対応については、マニュアル等は用意されているものの、これまで非常事態に遭遇したことがない為、実際に有事の際に本当にマニュアル等が機能するのかが不安であり、疑問。

**【相違点】**

保護者：子どもは日々成長しているが、その成長に合わせた支援が常に行われていない。また、日々の子どもの過ごしや活動の様子が、送迎時の口頭でのやり取りでは不十分・不満。連絡帳等でしっかりとした報告がほしい。また、他機関の子どもや障害の無い子どもと接する機会は無くてよい。

支援者：日々その都度、その日の子どもの状態に応じて活動プログラムを考え、個々に合わせた支援を提供している。また、送迎時の引き継ぎ・報告については、短い時間でも的確に様子を伝えることが出来ている。他機関の子どもや障害の無い子どもと接する機会を設けた方が良いのでは？

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・日々、個別のスケジュール・活動内容を組み立て、能力や興味・関心・個性に合わせた過ごしをして頂いている為、その日の子どもの様子・状態に合わせて臨機応変に活動プログラムを変更できる。
- ・子どもの療育、居場所としての役割を最優先に考えている。
- ・職員配置についても日々標準より多めに配置している為、より個別の対応が出来やすい。
- ・意図的に午前日課や長期休暇の日も半日のみの短時間で療育を行っている為、子どもたちが比較的集中して活動に取り組める。

### 事業所の改善点

- ・居場所づくり事業から、約10年間事業を運営し、“古株”ではあるが、それが災いして、以前からのやり方を守るあまり保守的になり、現在のニーズにそぐわない箇所が出てきている。
- ・送迎時の保護者との引継ぎ・報告だけでは不満との声が多く、連絡帳の導入を検討。
- ・保護者のレスパイトとしてのサービス色が年々濃くなっており、現在半日のみのサービスを行っているが、過半数の保護者から午前日課や長期休暇の日の時間延長を求められており、短期間試行的に時間を延長する施策も検討中。
- ・個別支援級の子どもの利用が増え、送迎範囲が広がり、添乗者の確保が難しい。

### 事業所の改善への取り組み

保護者のニーズの整理をし、①これまで、原則週1日利用であったところを、「複数日の利用」を可能とする②新規利用児については、1年間2時間利用だったところを、「3か月間」2時間利用に改善③学校がイレギュラーで早帰りになる際も「昼食を食べた」ことを条件に早い時間からの受け入れを可能とする等を実践し始めている。

また、今後は①送迎時の引き継ぎ時間の見直しと連絡帳の導入を検討②午前日課や土曜日・長期休暇日も試行的に弁当持参にて時間延長を検討することとしている。

また、より個別対応を重視する為、パーテーション等でこれまで以上に安心できる・落ち着ける空間づくりを検討している。

### ～自己評価を行ったの事業所としての感想など～

事業所側が出来ている、または概ね出来ていると思っていたことが、保護者には物足りない・出来ていないと不満であったことがアンケートを取って再認識できた。約10年間障害児の居場所を提供してきて、初めてのアンケートであった為、普段の保護者とのやり取りだけでは汲み取れないシビアな部分、保護者の真意に少し触れられた気がする。これを機にせめて半期に一度はこのようなアンケートを実施し、常に移り変わる保護者のニーズについて、真摯に向き合い、反省すべき点は反省し、改善すべき点は改善するといったフットワークの軽さが求められていることを実感でき、実りのあるアンケート・自己評価となった。